

令和2年産 紀南の梅産地情報

2020/07/22

「生産概況」

1. 今年の南高の開花期間は21日間と平年並みとなったが、昨年12月から本年2月にかけて気温が高く、満開期は2月3日と平年より2週間早い開花状況となった。授粉樹との開花は若干ずれた程度だったが、満開期に平年を下回る気温となり、開花期間中の気象変動が大きく、収穫前の定点着果量調査では着果量は前年・平年より少なくなった。

出荷は小梅で5月15日、古城は5月19日、主力の南高は5月28日からそれぞれ始まったが、当初からの着果不良と4月・5月の平年を下回る降水量により、病害虫の発生は少なかったものの、実肥りは鈍化し例年になく少ない出荷量となった。

2. 生産量は、小梅・古城・南高とも前年・平年より少なくなった。

7/22日時点（生産見込量：ト）

品 種	2年産	元年産	平 年	前年比	平年比
小 梅	349	583	826	60%	42%
古 城	174	366	611	48%	29%
南 高	15,053	21,349	22,254	71%	68%
在来系	276	365	521	76%	53%

「安全・安心対策」

JA紀南の安全・安心対策は18年目に入り、全出荷者の生産履歴の安全確認、生産者毎の出荷物サンプル保管、農薬残留分析、GAP（農業生産工程管理）の自主点検を実施した。

「産地の課題と方向」

近年予想を上回る気象変動の中で、梅生産・農業経営面においては作柄を安定させることが最重点課題となる。山畑等不安定園地での授粉対策や品種の見直し、老木園の改植を積極的に進めることが重要である。